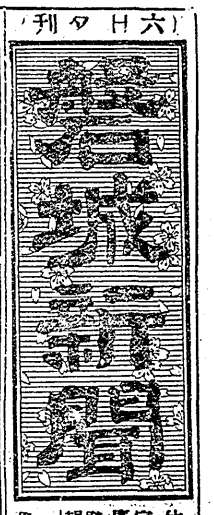
夕刊（六日）

大祭第一日曜休刊。
定價（壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（二行平錢指定廿錢增）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番



創作

「お雪とその周圍」（四）

福田ノ將夫

「しかし、お雪の兩親も、もう隨分の歳だからね、としものことがあつたら大變だからな。それを思へば餘りほめた生活でもないよ。そんな生活は羨む必要はないさ」

「それや、さうですね、しかしその將來を思はぬ其處にあの人らの生活の氣樂さもあるかも知れませんわ」

「そうかも知れない」

翌る日になると、お雪は邪氣のない顔に微笑みの色を惜つ氣もなく見せて來た。

その日、わたしが勸め先から歸つて來ると、奈美子とお雪とは一つの部屋に坐つて、洗濯物をほぐして居た。わたしはその傍に坐た。するとその時まで部屋の隅に弄具を散らして遊んで居たわたしの子供が、わたしの膝の上へ、飛んで來て腰を掛けた。

「お雪、お前幾歳だね」

「若旦那より一つ下の二十四です」

「二十四、お前何時迄もそう獨身で居るつもりかね」

「え、誰も來てくれる人もありませんもの」

「ちや一層のこと、温泉の仲居にでもなつたらどうだね、此頃温泉の仲居は什麼つまらぬ宿に居ても、月四五ヶ圓の祝儀を貰うことが出來るそうだよ、そしてうんとお金をためた方が」

「仲居つて、わたし恐ろしゆうございますもの」

お雪は子供が家に居るので、夕暮になると急いで歸つて行つた。

「お雪い、さつき仲居になるのが、恐ろしいと云つたが、什么云ふ意味だろう」

とわたしは夕飯を食ひながら妻に聞いた。

「そりや、矢張り子供がすく生れるから、恐ろしいと云ふんぢやないでせうか」

「そいつア、可愛さうだ」

しかしそれが穿ち過ぎて呉れるものか、本當か

無論、蔭では見て居るだろうけれども、俺なんかにはそんなことは出來ないな、矢張り、自分の子なら什麼意味の子でも可愛いいな、そんな人間らしい心のない男にだまされたのだ」

「そうかも知れません」

「一層のこと、その男の名をお雪に白狀さして、あのおやぢが、その男の處へ飛び込んでやれば好いのだ」

「でもあの人にはそんなことはとても出來ませんわ。實際出來ない其處にあの人らの生活の安樂さがあるのではないでしようか。なるがままに諦らめて、靜かな心で耐へ忍びそのことのうちにさへもある樂しみを見出して行くと云ふ風にして生きて居るのではないでせ」

「奥さん、隨分、生意氣なことを云ふな」

「でも屹度さうですよ」

「さうかも知れない、が、全部の責任をお雪の方へ投げかけて知らぬ半兵衛ですまして居る男のことを思うたまらないね」

「人のことをさう憤慨しつて始まりませんよ、それより御飯が冷えますよ」

わたしはせうことなしに寂しく微笑まずには居られなかつた。

（完）

※明日※　七月　九月新月
吉の日……暦四日　暦七日
※凶日※

▲一白　運動費のみ多くして先の氣受は却てあしき日

▲二黑　一時を繕ふことなく元を正し進むべし

▲三碧　才をのみたのむときは未遂に鈍物に劣るべし

▲四綠　こりよう底はなし追ひ〳〵昇ばかり氣をはげませ

▲五黃　捗らざれども成行に以て進むべし

▲六白　進退ともに機あるもの貸した金が取れないから

▲七赤　固なつて驚きしては頻りと水ばなをすすつてゐる。少首がつくり、化石の樣に凝

▲八白　不が、別に惜いとは思はないくばかりであつた

▲九紫　金錢の事だソノ死骸なりとも引

を除くの外は何事も順調に運ぶべき日

講談

幕末秘帖　狂怒亂心

（34）

渡邊，默禪作
宮野，歌春畵

「あゝ其時の樣子は」

高履は口を開いて空を仰いで獅子鼻をひよこつかせた

「イヤお前だちに見せたかつたな、彼の勇ましい成敗振を……最初は一つドンと刀打を喰はすと奴仰天して飛揚つた、其處を隙さずエーツー腰のつがひへ斬つけたのぢや、パッタリのめると思ひの外斬られながら逃出した、ソレ仕止めろといふので立會の英雄豪傑二三十人、先を爭つて斬つた

の斬らないの、ズバリ、ゴリ〳〵、トン〳〵、スイ〳〵、さながら何ぢや作小屋の大工どもが急ぎの受負工事をいたすやうな有樣早を見る間になまずとなつて相果てたぞ」

「奥樂はしやがんだなりに固なつて驚きしては頻りと水ばなをすすつてゐる。少し離れて背後を見せた音五郎は手拭を鷲掴みに無念の涙を拳に入れぶる〳〵と戰くばかりであつた

「やれ〳〵、まア、惨たらしい」

と奥中は鼻をこすつて

「殺されたもんなら、いくら後方から抱止めて曳戻さうとすると、音の力に釣られて云つて、今更ら悔んだところが後方もございやせん」

「止めなさんなッ！後生だ」

と身搖つて哄笑をする下から、ぐるりと前を向いて

「揮ひ來る三尺飛龍の劍、貫き得たり仇家の血髑髏」

と朗詠を張上げて高吟しつゝ行過ぎた

「ウッ、最う、か、か、勘忍がならねえ、奴ッ、ど、どうするか覺悟でやがれッ」

身ぶるひしながら聞いてゐた音五郎は突然氣色を變へて表門をめがけながらまつしぐらに駈込まうとする

「コレ親方、どこ何處へ行くッ」

奥樂は驚いて追縋つた。

「殺されたもんなら、いくら後方から抱止めて曳戻さうとすると、音の力に釣られてする〳〵と一間許り大地にかゝとをすつた

「止めなさんなッ！後生だ」

と云つて、今更ら悔んだところが後方もございやせん

「止めなさんなッ！後生だ」

と身搖つて哄笑をする下から、ぐるりと前を向いて

「揮ひ來る三尺飛龍の劍、貫き得たり仇家の血髑髏」

と朗詠を張上げて高吟しつゝ行過ぎた

「ウッ、最う、か、か、勘忍がならねえ、奴ッ、ど、どうするか覺悟でやがれッ」

身ぶるひしながら聞いてゐた音五郎は突然氣色を變へて表門をめがけながらまつしぐらに駈込まうとする

「コレ親方、どこ何處へ行くッ」

奥樂は驚いて追縋つた。

「殺されたもんなら、いくら後方から抱止めて曳戻さうとすると、音の力に釣られてする〳〵と一間許り大地にかゝとをすつた

「止めなさんなッ！後生だ」

と云つて、今更ら悔んだところが後方もございやせん

「止めなさんなッ！後生だ」

取つて葬つて遣りたうございやすが御組は何誰さまへ願つて出ましたならば下渡しが叶ひませう、それをたゞ聞かせ序に殺へて遣つてくださいまし」

「何、死骸か」と一寸當惑らしい顔をしたが

「それなれば駄目ぢやらう如何となればぢや、肉は肉骨は骨、ちり〳〵ばら〳〵に斬挫なれたで、イヤモウ死骸と申したところで形も影も存つては居はせん、ぢやから取片附けるにも甚だ困却いたしてる、是非なく竹箒で掻き寄せて掃溜に收棄てたぢや」

「えッ、掃溜にッ？ひ、ひ酷いことをッ」

「昨日の朝になつて見る白班や黑が五六匹も集つて、貪り喰ひ居つたわ、アハッハッハッ

「ぢやないか、まアまア少し沈着いて諦をし諦を話してからのことにたしよ、見つともない、人が笑つてるから止しつてばさコレ頭に前までが狂人になつては困るぢやないか」

奥中は必然と抑へた、隱かならぬ氣色と見て取つて食止めすば危險と察したのである。

「あゝ其時の樣子は」

高履は口を開いて空を仰いで獅子鼻をひよこつかせた

「イヤお前だちに見せたかつたな、彼の勇ましい成敗振を……最初は一つドンと刀打を喰はすと奴仰天して飛揚つた、其處を隙さずエーツー腰のつがひへ斬つけたのぢや、パッタリのめると思ひの外斬られながら逃出した、ソレ仕止めろといふので立會の英雄豪傑二三十人、先を爭つて斬つた

「何、死骸か」と一寸當惑らしい顔をしたが

「それなれば駄目ぢやらう如何となればぢや、肉は肉骨は骨、ちり〳〵ばら〳〵に斬挫なれたで、イヤモウ死骸と申したところで形も影も存つては居はせん、ぢやから取片附けるにも甚だ困却いたしてる、是非なく竹箒で掻き寄せて掃溜に收棄てたぢや」

「えッ、掃溜にッ？ひ、ひ酷いことをッ」

「昨日の朝になつて見る白班や黑が五六匹も集つて、貪り喰ひ居つたわ、アハッハッハッ

「勝手にッて、ど、ど、どうする必算なんだ、だしぬけに飛出してび喫驚させる

海軍……御後援

特作　活劇　日本海海戰の沖山行

原作　海軍作戰主任　中山嘉一
總指揮　海軍中將　佐藤一英
出演者
古田中博氏
佐杉本幸雄氏
大久保治氏
花瀧二郎氏
中島斐子氏
浪花節　玉川浪子
原作脚色　林義子
桂　武男　室町榮次郎
久米　讓　山田純三郎
木下千代子　衣笠淳子

髑髏組

隣同志の安達、齊藤兩家は犬猿の間柄、髑髏組の出現、討伐の命は兩家に

監督　清瀬英五郎
葛木香一、桂　武男
尾上桃華、中村吉次
櫻木梅子、衣笠淳子

紅雪亂舞

郷土、母を捨て、母の呼ぶ聲に甦る小紫源治の受難と懺悔の物語り……

土日曜學生デー
九月七日寫眞替り
高級映畫常設　平館　電四六六

◉見よ愈々!!

當ル九月（八日土曜）一日間限り
絶對日延なし僅か一日間の特別興行
浪界美音正に隨一の賈つ子宮川左近と關東浪界の人氣王松風軒榮樂兩師の大合同開演好期再び來らず聞き逃す勿れ!!
人氣湧く兩匠星來る
宮川左近　松風軒榮樂　人氣の集點
◎事實が何より證據です◎
◎是非共お聞き下さい◎
花火合圖　開場　平劇場　電話五五五

家貸

平家付道水家
（圓五十月貸家）
通採光良・理想的住宅
△磐城訓盲院隣の
新川通り

町平か町平　は方ノ望希御
吉田屋呉服店
電話一二一番

優秀なる最新型腕卷時計

◆クローム側　白金代用側
十型　十石入　アンクル　七圓五十錢
十型　十五石入上アンクル　拾壹圓
九型　十石入上アンクル　九圓五十錢
九型十五石入上アンクル　拾三圓
八型十五石入　アンクル　拾貳圓
八形十五石極上アンクル　五圓

◆十八金側（金質保証）
十型　十石入上アンクル　拾貳圓五十錢
十型十五石入上アンクル　拾八圓五十錢
九型十五石入上アンクル　拾五圓
八型十五石入上ヤンクル　七圓

平町五丁目（釜屋商店前）
鐵道省御用　金光堂時計店　電話七三六番

醸造元　清世界吉　清水屋
石城小名濱町
小野晋平
銘酒　各炭鑛御用達　電話六番

移轉披露

毎度お贔負にあつかりまして誠に有難ふ存じます。
今回皆樣の御奬めにより業務擴張の爲め來る
九月六日より
平町新田町
福榮亭跡
に移轉いたします、相變らず御贔負のほどお待ち申しております。
寶來亭　電話三二五番

入院隨時（自炊の便あり）
耳鼻咽喉科專門
大和田醫院
平町南町（電一七〇番）

改正　片濱乘合自動車時間表

平發　江名發
五時三十分　五時三十分
六時三十分　七時
八時　五時
九時　七時
十時　九時
十時　十一時三十分
一時　一時三十分
二時半　二時三十分
三時半　三時
四時　四時
五時　五時
六時三十分　六時四十分

平のりば　四丁目和泉屋前　新川町車庫
江名のりば　沖見屋　電話十四番　松屋

鈴木片濱自動車部
電話二一七
車庫呼出　電話一四二

レコードハ此のマーク！を
HIS MASTER'S VOICE
TRADE MARK REGISTERED
肉聲のビクターレコード
販賣店　會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）
店員募集

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士高久忠清
新潟醫學士赤羽
藥劑士佐竹菊雄
內科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、

開店御披露

氣分好い食堂ができました、暑い夏の夜御散策旁々
是非一度御來店の上御批評を
經營は大塚肉店故原料豐富、是非一度御試食の程を
女給數名入用
カフエー　幸樂
平町六丁目　電五三九番

醫院開始
◆內臟外科
◆外科一般
◆花柳病科
平町田町大通り
安齊外科醫院
電話四三六番

內科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士　青沼淡夫
電話四〇三番

鮫川堰の用水路取入口を變更

小名商港の實現と共に

關係町村から陳情

植田、小名濱、泉、渡邊、上遠野、玉川二町四ヶ村の鮫川堰用水組合では從來上遠野根岸地内の取入口より泉、渡邊、小名濱方面に通ずる水路を設けてあつたが工事不完全のため通水思はしからぬところから永らく殆んど自然消滅の狀態に放置かれてゐたが小名濱商港の實現に伴ひ漁船の洗滌その他より淡水の必要があり且關係町村においては旱魃期に灌漑の方法に困難を感じつゝある折柄として取入口を從來の個所より上流一トンネル型に變更通水するを便なりとし復活進工すべく關係町村長會にて準備中であつたが十一日頃關係の縣議等ねた

共に出縣促進陳情をなす筈である、尚該工費は約三千萬圓にて十萬圓を組合負擔五萬圓を補助とし十五萬圓を水利權を條件として淺野總一郎氏の寄附に俟つべく、大体の目算が立つてゐる模樣であるが右工事の完成は通水路沿岸に勿論鮫川堰の下流の町村の利便は莫大なものであらうと

現金取引を看板に惡仲買人退治

養蠶家の自覺と俟ち販賣利用の方針

石城郡地方秋繭は出まはりし優等一等級の優良繭に對し最盛期にあるが石城販賣利用組合ではこの機に不正ブローカーの排擊、正量現金取引の徹底を期し繭市場取引による生産家の利益保護を計るべく活動を續けてゐるが大量仕入れをなす片倉製糸會社では任意地方

養蠶家に組合を作らしめ出荷繭は優等一等から五等級位までの等級制度・・・抱いてゐるが引續く米價

四倉組頭會

御大典業を協議

四倉蠶業取締所管内消防組頭會は四日午前九時から同署内に於て開き今秋挙行さるゝ御大典記念事業計畫その地方有力者に對しては市價外れの安値にて買付けられてゐるので生産者側にとつて大なる打擊である、養蠶家はこの奇怪な手段に不審

酌婦の尻割り

忽まち捕まる

石城郡渡邊村大字田部字初田地内を四日午後五時半頃妙齢の婦人が後方を振返り追つ手でも恐れる樣子で徘徊してゐたを駐在巡査が不審に思ひ呼び止め訊すと相馬町新館村伊丹澤姥石生れ酌婦佐藤ツメ（二八）で三日茨城縣松原町高萩料理店魚峰事大峰政榮方より前借四百五十圓で植田材料理店小野甚方に稼ぎに來たが一晩泊つたのみで翌日午後買物に行くと偽り東京府下玉ノ井の魔窟鴨澤たけ方に行かんと前借を踏倒しての逃走途中判り植田署の取調を受け雇主に引渡された

夕刊新聞を抱えた美人の轢死体

身元は一切不判明

鎌田鐵橋附近で

平保線區保線係員が今六日午前五時頃平驛下り本線の線路監視中平町東端の夏井川橋梁と鎌田山隧道西方入口の中間に無惨にも胴体真二つとなり轢死を遂げてゐる妙齢の美人があるので驚いて平署に急報、大久保部長出張檢視の結果住所氏名其の他一切不明年令推定十八才位い色白の美人で遺留品は雜誌富士一冊及び昨夕發行のいはらき新聞夕刊紙一枚のみで場所柄自殺である事に疑はない尚目下身元を調査中であるが所持品から推して茨城縣下の者で自殺を決意して家出し來たものであるらしく死体は一時神谷村に引渡した

四倉市場活況

整理の爲め休業

石城販賣利用組合四倉繭市場昨五日の取引總數は千五百五十四貫に達し相場は最高六圓三十錢最安値三圓秋繭取扱中の最高値である秋繭出廻りの最盛期に入り出廻り激增の結果繭の收容困難となつた爲め今六日及明七日の二日間は休業する事となつた

好間農作品評

好間村農會では昨五日午前八時から同村稻の立毛品評會を開催したが郡農會大山技師

石城舊名偉人傳（六）

石城の炭田を發見した當代の大森平藏

△片寄の藏

文化十二年二月十五日を以て大浦村大字大森に生る人呼むで大森の藏といふ、父を庄兵衛といふ、その子二男あり、庄兵衛の弟利兵衛同村狐塚に居りしが子供なき爲め氏を養ふて後嗣とす、此人となり美貌秀才志氣常人に異るその事に處するや皆人の意表に出づ利兵衛木材商を業となし嘉永年間慶安及び春繭取引の欠損の挽回を努めてゐる

生産家の頼みの綱とする秋繭取引も同社の營業政策並びに一部地方有力者に利益のろう斷をされてゐる現狀で生産當事者の猛省が叫ばれてゐる

夕江戸に出で明石屋治右工門氏に親しむ、故に氏もまた亦た屢々相往來して殊に信義を厚ふするといふ、安政二年六月氏は商用の爲め江戸に登らんとして途次平驛を南方なる新川より石炭數個を得て謂へらく下流にも此の川の水源にありと、高崎今造を拉して川を溯り銑を南方に發見す、されど此の地湯長谷藩支配地なるを以て白水里正大越甚六一謀り告ぐるに開產前途の利を以てす甚六氏大いに贊し此れが採掘を藩主内藤侯に請ふ許さるゝ、茲に於て石炭運上の法を定め一俵につき銀一匁づつを上納し、小名濱より海上江戸に送り初めて販賣の路を開く、發見より此處に口月に減ず、茲に於て氏は或は逃れ田畑荒廢して戸口月に之れを憂ひ荒地の貢年大いに之れを除き窮民を撫育是れ十ヶ年を經營慘憺殆むと一ヶ年質に安政五年五月なり、是れ氏の水里正となり夙に命令せん學を懇請すれども代官として炭山の元殆なり、萬野村金右工門曾つて之れを許さず、配下十ヶ村の民憤起して企つ氏篤く慰撫し挺身を訴狀を懷ろにして天保十三年江戸に上り老中水野越前守を途に要して之れを訴ひ囚つられて獄に投ぜらる、幾もなくして赦され且つ願望を達し荒高九百三十石、永百九十七貫餘を十ヶ年免除せられ人民初めて塔に安むするを得たりといふ

△關口豐

法學士關口豐氏は湯長谷長藏豐寛の長男にして嘉永五年五月九日江戸府布笄橋の内藤家の邸に生る、幼にして悟堂條一堂に就き漢學を修む年十七戊辰の兵亂に遇ひ事平ぎて後致道館の助教となる、明治三年十月時勢に感ずる處あり遊學の許可を得て上京し戸澤光德氏の塾に入りて佛蘭西語を修む四年貢進生として大學南校に入り後司法省の明法寮に轉じボアソナート博士つきて法律學を修む、同八年七月五日同省より三ヶ年フランス留學を命ぜられ明治十一年四月五日よりサンシュ、アンドロアノ證を受け法律實習の研究に從事せしが不幸病に罹り明治十二年八月二十八日巴里に於て沒す、享年廿八才、磯部四郎、井上正一等と同窓なり

御大典記念事業に虚禮廢止運動

こんご本身になつて共濟委員會の企

石城郡方面共濟委員會ではその後委員間に於て記念事業に添ふ最も意義ある事業を寄り〳〵協議中であつたがこの程大体意見の一致を見るに至つた、石城郡地方の内容は從來石城郡地方に於ては冠婚祭やその他樂ある毎に各種の遺ひ物をする慣習が今なほ盛んに行はれてゐる、これは全く慣習に依る虚禮であるため町に於ても義あるものとして近く同委員會に提出具体的實行方法を場諸決定の上虚禮撤廢の効果なく最近では貧困者の人にはこの

來る十五日現在で選擧名簿を作製

二十五才以上に及ぶもの懸命の町村役場

石城郡下各町村役場では明年五月執行する町村會議員選擧名簿は今月十五日現在を以て調製せねばならぬのでこれが準備に着手したが町村在住二ヶ年以上（衆議院議員は一ヶ年）滿二十五歳以上にあるを届け出ぬ者が多く選擧に際して若し脱漏でもして居らば却て抗議を持込む者などもかなりあるので調査に少からず苦しんでゐるが、殊に工場會社等の從業員に異動が多く

栃木縣人の誇

隆昌に向ふ藤沼醫院と櫛田材木店

前期改選期は深く勇退した然し將來多事なる平町の現狀は氏の如き有爲の人々の努力に俟たざる可らざる幾多の理由あり、亦た常に愛町の純情に燃ゆる櫛田氏は今尚ほ各種の有職階級にあり、事公共の爲めには私を物である、若し貧しくして病める者の爲めには自ら俥をまげて之れを救はんとする厚き慈善行爲は氏の歷史と事實とが雄辯に物語つてゐる、世を濟ひ人を救ふ事は醫師の本分であると堅い信念に燃ゆる氏の向ふところ一として可ならざるは無い有樣である、專ら内科、小兒科に秀で氏の門を〳〵

藤沼醫院

在郡栃木縣人中傑出せる代表者〳〵として推薦する人に平に伴れて數を增し常に醫員を忙殺せしめてゐる、而して藤沼氏の信望は單に醫業方面に止まらず近來殊に社會的各方面に重要人物として要求視せられ町民の輿論は來る可き町議の改選には是非とも氏の多き手腕德望の人をして煩はしたいと云ふ希望があり隨つて來る可き改選期には當然衆望を負つて出馬の餘儀なきに至るだらうとの事である、謙讓の美德に富む氏が果して肯むするか否かは問題としても平町の爲め益々氏等の力に俟つべきであらう

櫛田材木店

何業を問はず資本の豐富が高は六百貫此の相場は四倉市場より幾分の安値を見せ最高五圓四十錢最低三圓九十錢買馴五圓八錢である

事業と人……（十四）

大浦校落成

十二日竣工式擧行

大浦村では過般來同村小學校の講堂一棟の新築工事を急いでゐたが愈々近く樣成を見る事となつたので來る十二日午後一時から新講堂の落成祝賀會を開催する事となつた

勿來市場安値

勿來繭市場に於ける五日の取引高は六百貫此の相場は四倉市場より幾分の安値を見せ最高五圓四十錢最低三圓九十錢買馴五圓八錢である

洋食店の珍客

實は無錢大盡

平町字紺屋町カフエー松ケ岡で昨五日夜洋食酒代二圓分を踏み倒し逃走せんとした男があるのを折柄密行中の平署猪狩刑事が發見格闘の末逮捕本署に引致の上嚴重取消た處此奴は當時住所不定無職西白河郡川崎村大字踏瀬生れ深谷袈裟好（三五）と稱し詐欺横領其の他刑科五犯を有するものである事を自白引續いて嚴重取調中であるが餘罪多い見込みである

磐城中補欠入學

二三年八名を許可

磐城中學校の第二學期補缺人學試驗は三日執行受驗者十七名中左記の通り合格者五日發表された

（二年級）國分二夫、渡湯正清、小名川年雄、高橋金治、中田目芳夫、比佐六中（三年級）中田目直久、高橋康郎

馬公の珍病流行

驚ろいた產馬組合で專門家首を捻る

石城郡入遠野村地方に昨今馬の珍病が流行し出したので石城產馬組合上川技手出やゝ良好で鰹五百尾を漁獲張檢査の結果此の珍病は傳染性貧血症である學判明此れが豫防方法其の他の指導を受ける爲め農林省當局に技術員派遣方を申請中であつたが明七日から九日まで三日間農林省から星野技手が出張再檢査の上傳染性のものであるか否を決定する筈である

磐城丸調査

餌付きは佳良

本縣水產試驗場の磐城丸はいわし漁場調査のため去月二十九日午後六時小名濱港を出航原釜沖合に於て三十一日鮫魚群に出會して餌付が始まつたが餘罪多い見込みである

錦村小學校で兒童に養蠶

優良繭を收納

錦村小學校では養蠶奬勵のため、高等科二年生は暑中休暇に際し蠶種一蛾づゝを分配し農業受持教師が巡回指導しつゝあつたが、始めての試みとしては頗る良繭を産出したが福島市富國館齋藤甚兵衛、植田繭市場に四日搬入し市場にてはいつも農業奬勵のため五圓五十錢の特別價格に買入れ、市場よりは各兒童飼育者に賞品として「ノート」一部を贈呈し賞品授與式は六日行はれ同町では此上なき榮譽に感激してゐる

今度は江名町で自動車小兒を轢く

平署も手を燒き切る交通事故の頻發

江名町字中之作自動車營業約二週間を要する裂傷を負ひ滝口平治方雇運轉手佐藤重吉（二九）去る四日午後三時頃乘合自動車を運轉小名濱に向け同町字北町を疾走中前方街路で遊戯中の同江名北町椎名幸三郎長女モト（四）を誤つて轢倒し頭部に全治

松崎稻荷祭

あす盛大に執行

平町柳町松崎稻荷神社の祭は明八日盛大に執行する筈となつたが餘興に東京男女合同大歌舞伎、花火等の催しある筈で賑ふことであろうと

悲觀の自殺

鐵道を枕に

磐城線廣野、久之濱間鐵道線路に四日胴体真二つに轢斷即死してゐる男を發見四倉署で檢視の結果双葉郡長塚村農高野義宗（三五）といふもので覺悟の自殺らしく原因は家庭の不和からゝしい

江名町で鰹節献上

町民の榮譽

石城郡の海產物は一ヶ年三百餘萬圓で本縣の水產業から同群を除いて斯業なき迄の隆盛を示し殊に江名町の鰹節は年產六萬數千貫此價格七十數萬圓に達し近年の加工技術の進歩は東都にも磐城節の聲價を上ぐるに至つたが同町製產に係る鰹節はや秋の御大典に當つて長

來る十五日現在で選擧名簿を作る

二十五才以上に及ぶもの懸命の町村役場

石城郡下各町村役場では明年五月執行する町村會議員選擧名簿は今月十五日現在を以て調製せねばならぬのでこれが準備に着手したが町村在住二ヶ年以上（衆議院議員は一ヶ年）滿二十五歳以上にあるを届け出ぬ者が多く選擧に際して若し脱漏でもして居らば却て抗議を持込む者などもかなりあるので調査に少からず苦しんでゐるが、殊に工場會社等の從業員に異動が多く

虚禮のため却て苦しめられる

共濟委員會にて虚禮廢止の決議即ち共濟委員會にて虚禮廢止の決議即ち倉署で檢視の結果双葉郡長塚村農高野義宗（三五）といふもので覺悟の自殺らしく原因は家庭の不和からゝしい

天盃拜領者

植田で廿二名

植田町にて御大典に際し天盃を拜授する高齢者は現在女十四名男八名の廿二名で九十才以上は女一人である、同町では記念表彰をなすべく目下方法に就き協議中である

觀世流素謠

勿來町で開く

勿來町大日本炭礦勿來坑主催にて十六日午前九時より勿來町窪田才丸屋旅館に觀世流素謠會を開催する筈、勿來素謠會を始め植田觀世會泉松韻會より七十餘名の出席者ある模樣で盛會を豫想されてゐる

笑話

※……ひやかし客

「何だい、馴染の客の指を三本とは妙な處を切つちまんだね」女「だつて姜し餘りあわてたもんだから少し別な所を切つてしまつたの」男「少し別な所とは」女「アノネお金をしぼり取つて手を切るつもりであつたの（南町ノラ息子）

磐城軍快勝

全平軍敗る

磐中對全平聯合の野球試合は昨四日午後二時から磐中グランドに於いて清水佐藤兩君審判の下に開始したが十三對十一で磐中快勝した

凌辱傷害の實地檢證

武田判事一行

福島地方裁判所平支部中谷豫審判事武田檢事は五日午前九時書記を從へ石城郡飯郎村北白土伊藤かねよ（三九）の暴行事件の實地檢證をなし同日後一時から内郷村磐城炭礦綴坑々夫加賀美力（三五）の殺人事件の實地檢證をなしたが今六日も午前九時から七月中好間村田代原地内に通行人に暴行を加へた宮城縣生れ植木商大友良藏（三七）にかゝる凌辱致傷事件の實地檢證をなす筈